

平成31・令和元年度 学校評価総括表

奈良県立郡山高等学校

教育目標	幅広い知識と教養を身につけ、主体的に学ぶ態度と、正しい判断力と強い意志を養い自律的な生活態度を育成する。豊かな人間性や社会連帯の精神、国際社会に生きる資質を養うなど、民主的な社会の創造と発展に貢献できる豊かな人間性と創造性をそなえた人材の育成を目指す。		総合評価
運営方針	「誠実・剛毅・雄大」の校訓の精神と文武両道を奨励する校風のもと、個々の生徒の自己実現に向けて、確かな学力の定着を図る指導、自主的な学習態度や自律的な生活態度を高める指導の徹底を図る。		
○昨年度の成果と課題	本年度重点目標		具体的目標
すべての教科において、ICTの活用、アクティブラーニングの取り入れが進んでいる。観点別評価の視点で授業を組み立て、評価につなげる展開をさらに進めたい。 学舎統合と校舎の耐震不足による学習面、部活動の課題に向き合い、成果を出せるように取り組んでいきたい。	キャリア教育を充実させ、生徒の進路実現を図る。	進路に関する情報提供等を充実させ、自己を客観的に見つめさせることにより、早期より具体的な将来の進路(第一志望)を考えさせる。	B
	生徒の意欲や思考を引き出す授業を工夫し、主体的・探求的な学びを提供する。	第1学年で基礎・基本を固めるとともに、予・復習を習慣化させる。時間を有効に使う学習を定着させる。また、校内研究授業や自己研修等を通して指導者の授業力を向上させる。	
	学習と部活動の両立が図れる指導をめざす。	学習においては集中力を養い、目標を貫徹し継続して取り組む強い意志力を育てる。部活動においては、教科担当と部活動顧問が常に連携し、効率的な活動となるための工夫を図る。	
	豊かな人間性と創造性の育成に努める。	学校行事、生徒会活動、HR活動及び読書活動等の精選と充実を図る。	
	社会の一員として自立するため、シティズンシップ教育を推進する。	基本的な生活習慣を確立させ、校内外の生活全般にわたってマナーと、整理整頓の習慣を身に付けさせる。また、学校行事や地域への積極的な貢献を推進する。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)		学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)		改善方策等
学習指導	観点別評価の導入に向けた授業の充実	観点別評価の導入を図るため、単元ごとや授業ごとの評価方法を研究する。	昨年度と比較して観点別評価をした機会が増えたと答えた職員が70%以上ならA、50%以上ならB、20%以上ならC、20%未満ならDとする。	—	観点別評価の導入に向け、授業での指導も含めた観点別評価について各教科に研究をお願いしている。なお、教員アンケート実施後に自己評価を行う予定である。	B	『今年度、昨年度と比較して観点別評価をした機会が増えたと思いますか』という質問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた教員はあわせて66.0%であり、大多数の教員は昨年度より観点別評価をした機会が増えたと考えられる。しかし、「そう思う」と積極的な回答をした教員は13.7%にとどまっており、まだ十分とはいえない。	観点別評価についてはまだ課題が多いが、校内で評価についての環境を整えるとともに、将来的には教務内規の見直しを検討をしなければならない。新しい学習指導要領の実施における観点別評価を進めたい。	授業の充実につながることを期待する。教員の負担増には懸念がある。
進路指導	進路目標の明確化と向上心の維持	授業への取り組みに加えて、進路指導部主催の進路講習・夏期講習等への自主的、積極的な参加を促す。	各講習において、参加申込をした生徒の出席率が80%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満ならDとする。	B	3年生は夏期休業期間より本格的に学習に取り組むようになり、講習出席率は全体で75.5%であった。また、2年生は58.5%にとどまった。早い時期から進路目標を立てて、計画性を持って学習に取り組むよう指導を継続する。	B	講習出席率は3年生は1学期50.2%・夏期・75.5%・2学期71.1%、2年生は夏期58.5%、1年生は夏期94.6%、全体で72.9%であった。2年生は部活動との両立、3年生は塾等との関わりで不参加の傾向にあり、学校生活の中での位置づけについて検討すべきである。	講習自体の実施時期等については現行のまま継続しながら、内容については、今後求められている学力を補うよう工夫する必要がある。授業との関わりや関連性も考え、講習内容を検討していく。	本校入学で目標実現ができたと考えてしまう生徒もいるのではないかと懸念がある。早期に確かな目標を持たせそれを維持させようとしている教員の課題意識が「C」評価となっている。
		各学年のそれぞれの段階で、将来を見据えて自ら努力目標を設定し、最後までやり抜いていく力を培う。	生徒実態調査において、自己の目標に対してよく努力できたと回答した生徒の割合が80%以上ならA、60%以上ならB、40%以上ならC、40%未満ならDとする。	—	生徒実態調査はまだ実施されていないので報告は次回とする。ただし、保護者へのアンケートによると、様々な情報についてさらなる提供が望まれている。高大接続改革に伴う状況の変化等について随時情報提供を継続していく。	C	3年生では計画性を持って努力できた生徒が69%であったのに対し、1・2年生では約80%ができていなかった。しかし、1年から2年にかけて国公立大学を目指す生徒が70%を越えており、目標実現のための具体的な取り組みや努力を促す指導が求められる。	大学入学試験の改革時期にあり、実施方法や試験内容が大きく変わることを教員が的確に把握し、教科指導や進路指導に反映させることがまず第一である。学校全体で進路実現に向けた3年間の計画を検討すべきである。	
生徒指導	規範意識、公共心の向上	学校生活のあらゆる場面で挨拶の励行を促す。	生徒実態調査を実施し、本校生が教員や来校者に対し、自ら積極的に挨拶をしており、友人同士においても心地よく挨拶を交わしていると思う生徒が80%以上ならA、70%以上ならB、60%以上ならC、60%未満ならDとする。	—	生徒実態調査を行う予定のため、まだ評価できない。登校時の挨拶の状況はクラブ員中心に向上していると感じられ、各クラブでの指導が少しずつ定着しているように思う。この事はクラブ員以外の生徒へ良い影響を与えている。	A	2学期末に行った生徒実態調査の中で「必ず自分から挨拶をする」「必ずとは言えないが自分からしている」と答えた生徒が88%を占めており、生活委員による毎週水曜日の挨拶運動や毎日の教員による立哨指導の成果が見られる。	挨拶に対して「挨拶をされてから返している」挨拶をほとんどしない生徒が12%を占めており、この生徒達の意識を変える指導が課題である。	良好である。
特別活動	自主的・自発的な活動を通じた、豊かな人間性の育成	学校行事、HR活動、部活動に積極的に取り組み、活力ある生活を実践できる環境を整え、生徒の活動の視野を広げる。	生徒実態調査により、学校行事やHR活動、部活動を自主的・自発的にすすんで実践することができたと回答した生徒が80%以上A、60%以上B、45%以上C、45%未満ならDとする。	—	「生徒実態調査」を経て、年間を評価する計画であるが、新入生のクラブ参加も例年通りの高い水準で、「球技大会」や「文化祭」などの諸行事でも意匠を凝らし取り組む姿が見えた。	A	「生徒実態調査」で学校行事やHR活動、部活動を自主的・自発的にすすんで実践することができたと回答した生徒が各学年90%を超えている。行事や部活動に関して、与えられた環境を使って活力ある生活を送ることができている。	生徒の活力を生かしつつ、日程の変更や、天候の影響に臨機応変に対応できる行事運営を考えておく必要がある。	良好である。
人権教育	お互いを尊重する豊かな人間性の育成を目標として、人権HR活動を充実	自他の人権を尊重し、命の尊さを実感させるため、生徒が主体的に活動し問題解決策を模索する人権学習を実施する。	全学年で各学期とも、「生徒が主体的に活動し問題解決策を模索する」人権学習を取り入れることができればA、2つの学年でできていればB、1つの学年のみではC、どの学年もできていない場合はD、とする。	A	1学期の人権教育ホームルームでは、3学年とも、昨年度の指導案にさらに工夫を加え、アクティブラーニングを取り入れた学習を実施することができた。	A	各学年の人権ホームルームにおいて、生徒が主体的に活動し問題解決に向けて思考を深められるよう、工夫を凝らした展開ができた。今後、様々な人権問題について学習し、確かな人権感覚を育むようにする。	生徒が主体的に活動する取り組みは、ほぼ定着している。今後は、生徒が多面的・多角的な理解や思考をとおして様々な人権問題を捉えることができる工夫をする。	良好である。

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期（9月）		年度末（3月）			
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
教育相談	スクールカウンセラー(SC)の有効活用	個別のカウンセリングだけでなく、ランチミーティングやスクールカウンセラー便りなど、スクールカウンセラーの活用を充実させる。	教員アンケートの結果、「スクールカウンセラーが有効に活用できている」と答えた教員の割合が60%以上ならA、40%以上ならB、30%以上ならC、30%未満ならDとする。	—	1学期にスクールカウンセラー便りを2回発行した。また、相談室とは別に、冠山会館の2階にカウンセリング室を設置し、相談室登校の生徒とカウンセリングを受ける生徒とを別々に落ち着いて対応できるようになった。	A	アンケートの結果、SCの有効性について87%の支持を得、一定の成果が認められる。しかし、不登校傾向の生徒が増えつつある現実を踏まえ、治療的教育相談だけでなく、予防的教育相談に取り組み必要性を感じている。	生徒や教職員対象の研修(ストレスマネジメント・ケース会議・事例検討等)を企画する。	良好である。
保健体育	生涯を通じて健康な生活が実践できる力の育成	「保健だより」を活用しながら、怪我・疾病予防など、健康への関心を高める。	生徒実態調査において、「保健だより」を読んで、『怪我・疾病予防などに生かされた』が、60%以上ならA、40%以上ならB、20%以上ならC、20%未満ならDとする。	—	生徒実態調査がまだ、実施されていないので、自己評価は、まだ出せない状況だが、保健通信は現在、4号まで発行している。	C	「怪我や疾病の予防に生かされた」と答えた生徒が全体で30.2%であった。健康についての興味関心が低いことがわかる。怪我・病気の予防のために特に気をつけていることについても「なにもしていない」生徒が42.0%にも達し、興味関心がないので行動に繋がらないことがわかる。	1・2年生は保健の授業で配布し話もしているが、時間を取ることが難しい時も多い。まずはしっかりと読ませることから始め、興味関心を高めていくようにしなければならない。	保健の授業中に配付するなど工夫されている。季節に応じて健康に関する課題を特集されているので、役に立っていることは確かである。
	たくましい体力の育成、活動の充実	体育に関する行事(「新体カテスト」「体育大会」等)を実施し体力の向上および活動の充実を目指す。	生徒実態調査において「新体カテストや体育大会など体育行事を通して、自己の体力向上に努めている」が75%以上ならA、60%以上ならB、50%以上ならC、50%未満ならD、とする。	—	生徒実態調査がまだ、実施されていないので、自己評価は、まだ出せない状況です。	B	「新体カテストや体育大会など体育行事を通して、自己の体力向上に努めている」と答えた生徒が、58.4%であった。「体力を高めたい」と考えている生徒が77.4%、「体育行事に積極的に参加した」「参加した」と答えた生徒は88.4%であり、体育行事と体力向上は結びついていると考えていないと推察できる。	各行事を積極的に取り組むことで体力向上に繋がり、日々の活動で継続することによりさらにその可能性が高まることを理解するよう努めていきたい。	引き続き、指導願いたい。
文化図書	豊かな人間性の育成を目指した読書活動の推進	読書HR、ピブリオバトル、図書館だより「共慶」、ポスター掲示などをおとして、読書活動への意欲を高める。	読書HR後のアンケート及び生徒実態調査において、いろいろな読書啓発活動から、「読みたい本が見つけれられた」と答えた生徒の割合が75%以上ならA、65%以上ならB、55%以上ならC、55%以下ならDとする。	—	読書HRは第1回を実施した。図書館便り「共慶」は各月担当の図書委員が読書啓発できるように工夫をし、順次発行中である。読書HR「ピブリオバトル」にむけ、研修を計画中である。生徒実態調査実施後、評価をする予定である。	A	「読みたい本が見つけれられた」と答えた生徒の割合は、「共慶」では57.3%、ピブリオバトルでは95.5%、全体で76.4%であった。ピブリオバトルは、普段出会えない本に出会えたこと好評であるが、「共慶」は昨年度より1.9%減少、特に1年生で51.4%と低くなった。これは、1年生作成が12月分以降になっていることも影響したと思われる。	「共慶」作成にあたり、興味を引かせる見出しや、発行する季節に応じた本、話題の本、時事の本等、誰もが興味を持つ本を紹介するなどの内容の工夫とともに、発行月の学年分担を工夫する。	良好である。
環境整備	生徒の自主的な活動による学校美化の向上	美化委員により、「すすんで清掃・整理整頓」を生徒全員に呼びかけ推進するとともに、各ホームルームや共同利用する場所の清掃状況を定期的に点検し、問題がある場所の清掃を強化し改善する。	生徒実態調査において、「清掃当番のとき、清掃活動にすすんで取り組んでいる」と答えた生徒の割合が、50%以上ならA、30%以上ならB、20%以上ならC、20%未満はDとする。	—	各クラスの美化委員が、「すすんで掃除・整理整頓」というポスターを作成・掲示し、クラス全員に呼びかけ積極性を高めようとしている。また、大掃除ごとに清掃状況を点検し、問題があれば改善している。廊下やトイレなどの共同利用部分の掃除も行き届いている箇所が多い。	B	掃除に「すすんで取り組んでいる」生徒は全体の43.5%で、昨年比が+5.5%であり、向上している。特に1年生の意識が高く、47.9%であり、3年生も2年生の時より+5.8%である。「すすんで」と「おおむね」を合わせると96.8%となり、良い傾向だが、「すすんで」がさらに増えるよう工夫をしていきたい。	美化委員が掃除推進のポスターを掲示するとともに、大掃除ごとに点検し、改善をしてきた。左記のように掃除に対する生徒の自己評価も高いが、掃除状況を見るため巡回すると、たまに不十分な箇所も見受けるので、きれいな状況を維持できるように、さらに環境美化を呼びかけたい。	引き続き、指導願いたい。
広報・情報	ホームページ、連絡メール、学校案内、広報誌等、情報発信の充実	ホームページから学校の様々な生徒の活動を紹介する。また、メールシステムを活用し、行事の周知により、カウンセリングの日程、育友会行事の情報を広く周知させる。	保護者アンケートにより、ホームページや連絡メールで配信される情報が役に立っているかを質問して「あてはまる」と答えた保護者の割合が60%以上ならA、50%以上ならB、40%以上ならC、40%未満はDとする。	B	ホームページや連絡メールで配信される情報は、役にたっていますかという項目では、あてはまるが52.5%なのでBである。ホームページの閲覧については、昨年より3.0%下がった。ホームページの更新の回数を増やさなければならぬと思われる。	B	保護者アンケートによる満足度52.5%から、ホームページや連絡メールはある程度認知されていると考えられる。生徒実態調査での生徒のホームページ閲覧は、複数回見ている生徒の数値が微増している。クラブ関係の情報の充実が良いと考えられる。最近、本校のHPは、ヤフーの検索サイトで上位に上がってきた。	旧ホームページは、早期に閉鎖する方がよい。新ホームページの更新回数をもっと増加するには、クラブ関係の情報が効果的である。保護者・生徒アンケートは、スマートフォンアプリによる集計に今後変えていくほうが効率的だと思われる。	情報発信に努力している様子がうかがえる。引き続きお願いしたい。
事務・管理	理化館の建て替えに関して、除却、建て替え等を調整	生徒や教職員が使いやすく、機能的な建物にしてもらうため、学校として関係部署と調整を行う。	本課が示すスケジュールや学校が希望する仕様に70%から100%になればA、50%から70%希望する仕様にあればB、希望する仕様の0%から40%になった場合はCとする。	A	現在設計業務を進める中で学校が希望する仕様に概ねなっており、引き続き生徒、教職員がよりよい環境で指導・学習できるように本課と調整を行いたい。	A	各担当部署と本校が除却・新築工事に向けて調整してきた結果、工事までの調整・準備は順調に進んでいる。今後は、7月(予定)屋内運動場除却、理化館新築工事に向けて、生徒の安全安心を基本にさらに調整準備を行っていきたい。	工事着工にあたり、校内の活動範囲が非常に狭くなるので、生徒の安全配慮を第一に考えて、調整・準備を行っていきたい。	良好である。